

心血管系の生老病死

●講師：南野 徹 教授（新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学）

●日時：平成27年3月20日（金） 17：30

●場所：医学教育図書棟3階 第2講義室

- Lecturer: Prof. Tohru Minamino
(Chairman, Department of Cardiovascular Biology and Medicine,
Niigata University Graduate School of Medical and Dental School)
- Date: March 20th (FRI) from 17:30.
- Place: Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.



加齢に伴って、糖尿病や動脈硬化、高血圧などの生活習慣病の罹患率が増加し、その結果、虚血性心疾患や脳卒中の発症の基盤病態となっている。健康寿命を短縮しているこれらの疾患は、多くの高齢者において共通に認められることから、老化の形質の一部として捉えることができる。すなわち、これらの疾患の究極的な治療のターゲットは、寿命を調節する仕組みそのものかもしれない。しかし、これまで加齢に伴って個々の病態がどのように変化するかという観点からの研究は行われてきたが、老化・寿命という側面からみた包括的な研究は行われていない。

このような現状で、老化・寿命のメカニズムの解明に関する研究は、最近10年間で飛躍的な進歩を遂げている。老化のメカニズムについては諸説あるが、そのひとつが「細胞老化仮説」である。近年、動物モデルにより老化の分子メカニズムが明らかになり、老化や加齢に伴う疾患において、細胞老化の重要性が示唆されている。そこで今回は、細胞老化を標的とした先制医療による健康寿命延長の可能性について議論してみたいと思う。

●担当：分子遺伝学分野 尾池 雄一教授 Inviter: Prof. Oike (Dept. of Molecular Genetics)

●レポート宛先/Essay (To Prof. Oike) : oike@apo.kumamoto-u.ac.jp

●レポート宛先/Essay (CC: Student Affairs Sec./医学教務) : iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp